

閉会あいさつ

実行委員 久保正和（社会福祉法人 鹿児島虹の福社会理事長）

皆さん、今日はほんとうにお疲れさまでございました。3時間があっという間に過ぎたような気がします。会場はごらんとおり椅子席で、ご不便をかけたかと思いますが、熱心に集会に参加していただきまして、お礼を申し上げます。

前回は一昨年の11月、1年2カ月前に開催しましたが、そのときも予想を上回る250名の方が参加しまして、会場をどうしようかといういろいろ相談もしたところですが、今回はさらにそれを上回る350名を超える方からのお申し込みがございまして、400名を超えるのではないかなというようにことになりこういうふうに椅子席ということで我慢していただくことになったところがございます。この地域包括ケアについての関心の高さがうかがえるのではないかと思います。

前回はほとんどがサービスを提供する事業者の方々のご参加でしたが、今回は、先ほど八田先生からもお話があったとおり、公民館の方、児童委員・民生委員の方、それから生協の組合員さんなど、いろいろな地域からも来ていただいています。まさに地域包括ケアの主役に当たる方々の参加が増えたというのが特徴ではないかと思います。

ご参加の皆様がほとんどが日々、「ホーカツ、ホーカツ」と耳に入ってきていることだろうと思います。そして、漠然としていたこの「地域包括ケア」という言葉が少しずつはっきりとして、意味もわかってきて、ではどのようにその実現のためにやればいいのかということもだん

だんと見えてきつつあるところではないかと思えます。

地域包括ケアというのはいろいろな課題があるろうかと思えます。政府が進める大きな流れというのは、いわゆる「医療から介護へ」「入院から在宅へ」という言葉にあらわれるように、医療保険や介護保険の制度を整備し、再編するということだと思うのですが、私どものこの学習交流会では多分、これが「地域包括ケア」の本家本元だと思うのですけれども、住民主体をテーマに、生活支援を中心にした地域づくり、まちづくりを考えようということで前回から企画したところがございますが、お役に立てたてございましょうか。

今日お話がありました基調講演、実践報告、そしてまた最後の座談会が非常に深まってよかったのではないかなと思いますけれども、ぜひこれからの地域づくり、まちづくりに活かしていただければと思います。

ご多忙の折実行委員長の役割を担っていただくとともに基調講演をもしていただきました八田先生、そして事例報告をしていただいた三つの団体の方々に改めて拍手を送ってお礼を申し上げます。ありがとうございます。（拍手）

これで閉会といたします。遠いところは阿久根や志布志などから来ていただいております。どうぞお気をつけてお帰りいただきたいと思います。今日はありがとうございました。